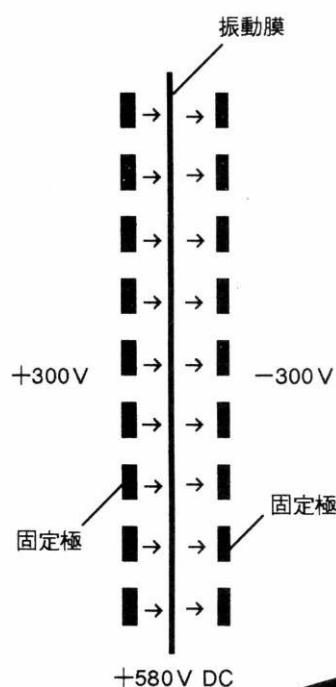


良さをわかっていただけるか——私達は真剣に考えました。

イバーユニット（専用アンプ）SRM群です。



*新サウンドユニット



BASIC
Lambda Nova Basic System



でおさらいしてみましょう。

図のように真ん中に振動膜と呼ばれる薄いプラスチックの膜が置かれています。その両側に固定極と呼ばれる穴のあいた金属の板が置かれ、この固定極に音楽信号が加えられます。この固定極に加えられる信号は、およそ最大300Vと普通のヘッドフォンに比べて約30,000倍の電圧です。と同時に最初の振動膜にもあらかじめ直流の580V（バイアス電圧）が加えられています。すると、[+と+は反発し、+と-は引き合う]と言う静電気の原理で振動膜が音楽信号によって、振動を始めます。この300Vと580Vの高い電圧を作り出すのが、ドライバーユニットの役目です。今年、スタックスが発表、発売するドライバーユニットは次にあげる3種類です。

SRM-3

¥45,000（単体販売価格）

これは、今回新たに発表するドライバーユニットの中では最もお求めやすい価格のもので、出力段にアクティブロードを

採用。オールトランジスター回路で、バイアス電圧は580V×2。入力にパラレルに出力が用意されていますから、録音時のモニターも可能です。発売は11月21日を予定。

SRM-T1W

¥120,000

この商品は、昼間はラウドスピーカー、夜はイヤースピーカーと一日中音楽を楽しみたい方に最適です。なぜなら、入力セレクターとボリュームを通った信号をイヤースピーカーのみでなくパワーアンプへも送り出せる切り替えスイッチが用意されているからです。

これは一般にパッシブ・プリと呼ばれる機能ですが、それが、入力3のバランス・イン（XLR）でも使える——という特長が、あなたのオーディオライフを豊かなものにしてくれます。さらにイヤースピーカー出力端子のうちProバイアスのひとつにバイアス電圧可変機能を搭載。感度の違うイヤースピーカー（たとえばSR-ΣProとLambda Novaを同時に聴くとき

などに音量をそろえることができ、容易に正確な比較が可能です。回路は、今人気最高のSRM-TISと同じく出力段に真空管6FQ7を、初段にはデュアルFETを採用。音質については定評があります。

SRM-T2

（価格未定）

イヤースピーカーの持っている性能をフルに発揮させたら、どうなるか。この命題に真面目に取り組む初段／出力段ともに真空管でかため、入力も、バランス入力1系統を含む4系統用意。最大出力も500V以上と、余裕たっぷりです。SR-Ωのみならず、Lambda Novaシリーズ、SR-Σ Proなど、Proバイアスのイヤースピーカーなら全てのイヤースピーカーが接続でき、その性能をすべて引き出してくれます。大きな電源部が、別になっているのも大きな特長です。この製品は、とにかく{音を}聴いていたきたい——と存じます。使用真空管：初段：7308×2本/ch 出力段：EL34×2本/ch